



全力を出し切る

プロレス興行の前座で、1分間の空手の試合をしたことがある。毎年、徳島で行われる興行だが、その年は記念大会として、タイガーマスクや

長州 力、藤原喜明といった往年の名レスラーも招かれていた。

対戦相手は、10キロ以上差がある重量級。

「最初から全力でいくしかない。そんなことを控室で考えていると、いよいよ私の出番となった。

リングに上がると思ったよりも狭く、そして高い。それに何といつても、照明がジリジリと熱い。四方からの観客の視線も痛いほど感じられた。

ついに、ゴングが鳴った。それと同時に相手の懐に飛



羽ノ浦町 賀出 伸吾さん

び込み、突きと蹴りを繰り返す。最初はスピードで勝る軽量の私が押していたのだが、一発一発が丸太のような相手の攻撃がだんだんと効いてくる。そして何より、息を止めて打ち合っている状態がとても苦しい。間合いを取り攻撃を休めたいが、ここは一步も引けないと、無我夢中で全力を出し切った。

試合に集中していたため、ゴングではなくレフリーが割って入り終了だと気付いた。

水の中でもがいているような時間が、ようやくやく過ぎた。足を引ぎずりながらリングから降りる相手、私の拳

もひどく腫れ上がり、肋骨にヒビが入っていたが、全てを出し切った後は、何とも言えない充実感で満たされた。

あの火花が散るような1分間は、生涯忘れることはないだろう。

次は、羽ノ浦町の森口洋史さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市春季短歌大会選

佳作

山根千代美
放射能汚染に苦しむ被災地のどこに流すか果しなき怒り

佳作

近藤 千代
両の眼が見える幸得て糸通し一発適中裾かがりする

佳作

入谷五十鈴
鳥ならば五分で行けるこの山の向こうは父母の眠るふるさと

佳作

湯浅 節子
若き日に冬の苔寺訪れし友は病いと闘いており

佳作

青木 恭子
蒲生田の伊島をのぞむ遊歩道波のしぶきにシオギクゆるる

井上 正恵

高尾 久枝
なにとなく今朝のミシンの音かるく手の皸も伸び春が笑った

高尾 久枝

水温み又巡りきし田作りの決意新たに段取りを組む

俳句

阿南市俳句連合会選

青木 慧

連山の彩の濃淡いわし雲

阿部 勝代
コスモスといっしょに揺られてバスを待つ

加藤 和子
秋灯下子供に返す母子手帳

湯村 陽子
豊作の跡ありありと株並ぶ

古川北斗星
秋明菊見つつ治療の歯科医院

張本 雅宣
もぎたてのピーマン貰い暮れゆくや

宮崎三千代
止まりたる鳥鮮やかや冬桜

末岐 美子
休み田に侵入したる曼珠沙華

近藤 まい
赤い羽根付けて今年も恙なく

宮繁ただし
秋深しトロッコ列車は嵯峨野行き

多田紀久代
新米で握るお寿司をお裾分け

橋本 征介
今にして思えばあれか鼻薬

野村 敏子
生きていてなんば曾孫と珍会話

持木 寿栄
自由という名の責任が重くなる

野口 吾朗
ついた虫やはりあいつか駆除します

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

多田紀久代

橋本 征介

野村 敏子

持木 寿栄

野口 吾朗

野口 吾朗

野口 吾朗

野口 吾朗

野口 吾朗

野口 吾朗

野口 吾朗

野口 吾朗

野口 吾朗

野口 吾朗